外国語教育メディア学会（LET）
関西支部 2020 年度秋季研究大会
発表要項集

日　時：　2020 年 12 月 19 日（土）10：15 ～ 17：50

場　所：　オンライン開催（要事前申込）

主　催：　外国語教育メディア学会（LET）関西支部
http://www.let-kansai.org/

事務局：　外国語教育メディア学会（LET）関西支部事務局

〒657-8501　兵庫県神戸市灘区鶴甲 1 丁目 2-1
神戸大学 大学教育推進機構
国際コミュニケーションセンター
大和 知史 研究室内
E-mail：kansailet@gmail.com

プログラム

10:00- **受付開始**

10:15-10:30 **開会行事**

司会◆ 大和 知史（事務局長・神戸大学）
挨拶◆ 菅井 康祐（支部長・近畿大学）

10:30-11:50 **ワークショップ１**
（当日はリアルタイム視聴，後日 LET 関西支部会員にオンデマンド視聴 URL を配信）
「教育工学者の視点から外国語教育を考える」
講師◆ 村上 正行（大阪大学）
司会◆ 神谷 健一（大阪工業大学）

10:30-11:50 **ワークショップ２**
（当日はリアルタイム配信，後日 LET 関西支部会員にオンデマンド視聴 URL を配信）
「GIGA スクール構想が学びに与えるインパクトとは何か」
講師◆ 豊福 晋平 （国際大学<GLOCOM>）
司会◆ 木村 修平（立命館大学）

12:00-13:00 **昼食**

13:00-15:30 **研究発表・実践報告・Classroom Tips** ① 13:00 - 13:30 ② 13:40 - 14:10 ③ 14:20 - 14:50 ④ 15:00 - 15:30

第１室（研究発表・実践報告・Classroom Tips）
司会◆ 深田 將揮（神戸学院大学）

① [研] 最終プレゼンテーションにおけるピア評価の検証
大年 順子（岡山大学）

② [実] 広島大学における非同期型オンライン英語授業の実践
高橋 有加（広島大学）・榎田 一路（広島大学）・鬼田 崇作（広島大学）
阪上 辰也（広島大学）・中川 篤（広島大学）・森田 光宏（広島大学）

③ [実] 非同期型オンライン授業における問い合わせフォームの活用
中川 篤（広島大学）・榎田 一路（広島大学）・鬼田 崇作（広島大学）
阪上 辰也（広島大学）・高橋 有加（広島大学）

④ [CT] Tips to Produce E-Tests on Blackboard LMS Efficiently
Yu Kanazawa（Kwansei Gakuin University）

第２室（研究発表・Classroom Tips）
司会◆ 田村 祐（関西大学）

① [研] より信頼性のある和英辞典の記述を求めて：翻訳ユニットの計量分析を通して
仁科 恭徳（神戸学院大学）

② [研] 映像作品を使ったグループワーク作文練習の効果：日本語説明文を中心に
于 賛（山東青年政治学院）

③ [CT] オンライン授業でのウェブミーティングシステム(WMS)とラーニングマネジメントシステム（LMS）の統合化と課題の出し方
木村(三宅) 陽美（ジョージア州立大学ペリメターカレッジ）

④ [CT] 大学の授業における LMS 掲示板の活用
今村 梨沙（同志社女子大学　嘱託講師）

第３室（研究発表・実践報告・Classroom Tips）
司会◆ 山本 勝巳（流通科学大学）

① [研] ライティングセンターSAPP における主体性を促す支援行動―チューターと相談者の発話と課題の分析から―
山下 美朋（立命館大学）

② [研] 日本人英語学習者の英語発音態度：どのくらいネイティブスピーカーに近づきたいと考えているのか
羽尾 将司（関西大学 大学院生）

③ [実] 音声合成を用いた外国語教材作成プラットフォームの開発：ロシア語教育での活用を主眼として
松下 聖（近畿大学）

④ [CT] Quizizz を使ったオンライン授業の導入
大前 智美（大阪大学）・山岡 正和（大阪府立渋谷高等学校）

15:30-15:40 **休憩**

15:40-17:40 **基調講演（当日リアルタイム視聴のみ）**

「外国語教員のためのインストラクショナルデザイン」
司会◆ 神谷 健一（大阪工業大学）
講師◆ 鈴木 克明（熊本大学）

17:40-17:50 **閉会行事**

司会◆ 大和 知史（事務局長・神戸大学）
挨拶◆ 名部井 敏代（副支部長・関西大学）

18:00-19:00 **オンライン懇親会**

司会◆ 亘理 陽一（静岡大学）

お知らせ

- 大会の参加申し込みは，前日 12/18（金）17:00 までに https://peatix.com/event/1719221/ から参加登録をお願いします。（期限までにチケット終売の可能性もあります。期限を過ぎてのお申し込みの場合，URL 案内をお送りするまでにお時間をいただく場合があります。）
- Zoom セッションにご参加いただく場合，事前に登録されたお名前を表示頂くようお願いいたします。
- 研究発表・実践報告・Classroom Tips のご発表の間に，賛助会員からのご案内があります。
- 懇親会は Zoom での開催となりますため，各自飲み物等をご用意頂きますようお願いいたします。

教育工学者の視点から外国語教育を考える

村上　正行（大阪大学）

コロナ禍においてオンライン授業が一気に行われるようになり、教育工学分野の果たす役割は大きい。また、このような状況も含め、デジタルトランスフォーメーションが進む中で、外国語教育のあり方も問い直されていると考えられる。本報告では、教育工学の研究を紹介しながら、外国語教育での ICT 活用について考える契機とすることを目的とする。

GIGA スクール構想が学びに与えるインパクトとは何か

豊福　晋平（国際大学<GLOCOM>）

世界的なトレンドとなっている学習者１人１台端末の整備・活用は、2005 年の OLPC プロジェクトが発端となったが、2019 年の GIGA スクール構想は我が国の教育をどのように変えうるだろうか。単なる授業技法や小道具（教具）と矮小化され、大量の機材は死蔵・文鎮化するか、それとも、学習者の文具として定着することで、学校・家庭間のデジタル格差が解消され、学習者個々人の学びはデジタル・シフトするのだろうか。

本ワークショップでは、情報環境整備と ICT を扱うための教授指導力という典型的な教育提供側視点を離れ、むしろ、学習者側の生活や将来職能といった社会的文脈の関連性から学びを読み解くとともに、初中等教育の GIGA スクール経験が高等教育に与える影響までを考察する機会としたい。

最終プレゼンテーションにおけるピア評価の検証

An Analysis of Peer Assessment for Final Oral Presentation

大年　順子（岡山大学）
Otoshi, Junko (Okayama University)

キーワード： peer assessment, oral presentation, holistic rubric, FACET analysis

1. はじめに

ピア評価は，日本の大学の英語授業のさまざまな活動で取り入れられているが，総括的評価としての有効性と信頼性については，まだ十分に検証が行われていない。そこで本研究では，全体的評価基準表を用いて，最終プレゼンテーションにおけるピア評価の有効性と信頼性を検証した。

2. 参加者と手順

参加者は, アカデミックプレゼンテーションを最終プロジェクトとする２年次必修クラスの受講者 29 名と指導教員（発表者）１名であった。最終プレゼンテーションでは，各自の興味を持つトピックに関してスライドを用いて８分程度の個人プレゼンテーションを課した。プレゼンテーションは，学期（１学期８週）の最後の３回を使い，約 10 名ずつ実施した。また，事前に教員による模擬プレゼンテーションを実施し，当該大学が開発した全体的評価基準表（10 点満点）を用いて評価者トレーニングを行った。受講生には，ピア評価は１割，教員評価は９割となると伝え，全員のプレゼンテーションを終えた後で，各学生には 10 点満点のスコアが知らされた。

表 1. 評価ファセットの適合度結果

Facets	N		Overfit (value<.60)	Fit (.50≤Value≤1.5)	Underfit (1.5≤Value)	Distorts or degrades the measurement system.(Value>2.0)
Participants	29	Infit		100%		
		Outfit		93.10% (N=27)	6.89% (N=2)	
Raters	29	Infit	17.24% (N=5)	68.97% (N=20)	13.79% (N=4)	
		Outfit	17.24% (N=5)	65.52% (N=19)	17.24% (N=5)	3.44% (N=1)
Teacher	1	Infit		100% (.71 -1.2)		
		Outfit		100% (.70 -1.2)		

3. 結果と考察

分散分析の結果，受講生のプレゼンテーションの出来栄え，ならびにピア評価の平均スコアには，各回による統計的な差異は見られなかった。また，ラッシュモデルの適合度を検証した結果, 65%以上の学生が適合度の基準内を満たしており，教員との相関は，統計的に有意であった (τ =.676**)。これらの結果は，概ね Matsuno (2017) の研究と一致するが，本研究では，教員評価はピア評価よりも統計的に厳しめな値を示した (z = -4.563, p = .000, and r = .85.)。

参考文献

Matsuno, S. (2017). Adoptability of peer assessment in ESL classroom. *Creative Education, 8*, 1292-1301.

広島大学における非同期型オンライン英語授業の実践

A Report on Asynchronous Online English Classes at Hiroshima University

高橋　有加（広島大学），榎田　一路（広島大学）
鬼田　崇作（広島大学），阪上　辰也（広島大学）
中川　篤（広島大学），森田　光宏（広島大学）

キーワード： オンライン授業，非同期型授業，LMS

1. はじめに

新型コロナウイルスの拡大により，大学では充実したオンライン授業の必要性が高まっている。本実践報告では，2020年度前期に初年次生を対象に実施された必修英語科目における非同期型授業の概要について述べる。

2. 内容

90 分相当の非同期型授業は，2020 年度前期に必修英語科目であるコミュニケーション IA/IB のクラスを履修した広島大学の初年次生 1148 名を対象に，広島大学で使用されている LMS である Blackboard Learn R9.1 (Bb9)上で行われた。Bb9 上では，曜日ごとにコースを分けて当該科目の履修生を登録した。毎回の授業のテストや動画はモジュール形式で提示され，1 つの項目を完了後，次の項目へ進む形で行われた。モジュールは，1) 単語の確認テスト，2) 教科書の予習チェック，3) 予習範囲の解説動画，4) 予習範囲の理解度チェック，5) 振り返り，の順に学習が進むように配列した。必要に応じ，次の項目に進むための公開条件を設定することにより，学生が全ての項目に取り組むようにした。受講期間は，開講曜日当日 8:00 から，翌日の 17:00 までとした。また，出席確認のためのトロフィー及び各テストの満点取得者へのトロフィーの表示を通し，学生が自発的に学習習慣を管理し，積極的に取り組めるよう工夫した。学生からの問い合わせは Microsoft Forms 経由とし，各曜日に教員がチームとなって対応した。

3. 結果と考察

大規模な完全非同期型の授業は我々にとって初めての取り組みであったが，前年度までのコミュニケーション IA/IB における授業実践の積み重ねがあり，教員が教科書の内容を熟知していること，補助教材が豊富にあること，Bb9 を効果的に扱う技量を持った教員がいること，といった要因により，全体を運用することができたと考えられる。各回の小テストにおいても高い平均点が維持されており，リーディングのクラスの単位を修得した学生の割合も 2019 年度の前期に比して大きく変わらず，90%以上が保たれていた。

4. 今後の展望

前期の取り組みを振り返り，後期では受講期間を各学生の時間割上の 90 分間に限定した。また，Bb9 上に曜日ごとのコースを設けることを止め，単一コース/モジュール内で学生グループを分けて登録することにより，教員の授業準備の負担の軽減を試みた。さらに，PC や Bb9 の機械的トラブルに対する技術的な問い合わせに限らず，英語に関する質問をすることも推奨するため，教科書の内容に関する質問に答えるためのコーナーを Bb9 上に新しく設け，実践中である。

非同期型オンライン授業における問い合わせフォームの活用

A Report on the Use of an Online Inquiry Form in Asynchronous Online Courses

中川　篤（広島大学），榎田　一路（広島大学），
鬼田　崇作（広島大学），阪上　辰也（広島大学），
高橋　有加（広島大学）

キーワード： オンデマンド型授業，非同期型授業，オンライン授業

1. はじめに

新型コロナウイルスの拡大を背景に，大学ではオンライン授業の必要性が高まっている。しかし，対面型授業では教員や友人に尋ねるなどして即座に解決できた疑問も，個々人で取り組む非同期型オンライン授業では，専用の窓口を設けて対応しなければ解決されづらい。そこで我々は，学生の問い合わせの受け皿として問い合わせフォームを作成した。本実践報告は，令和2年度前期に初年次生を対象として実施された非同期型必修英語科目に関する問い合わせフォームの活用とその成果について述べる。

2. 内容

令和 2 年度入学生 1148 名を対象に，必修英語科目であるコミュニケーション IA/IB を非同期型オンライン授業（オンデマンド型授業）として実施した。非同期型オンライン授業とは，個々の学生が定められた期間内に大学の指定する LMS にアクセスし，モジュール化された小テストや解説動画，振り返りなどから構成される 90 分相当の講義を受けるという講義形式である。この授業に関する学生からの問い合わせは，主に Microsoft Forms を用いた問い合わせフォームを通して行われ，曜日ごとの主担当教員を中心とするチームがこれに対応した。前期の問い合わせフォームは，前期初回授業日の前日である 4 月 15 日から後期初回授業日の前日である 10 月 1 日まで設置され，合計 367 件の問い合わせが寄せられた。

3. 結果と考察

問い合わせフォームの投稿を KJ 法（川喜田，1967，1970）とテキストマイニング（樋口，2020）を用いて分析すると，「質問」，「報告」，「要望」の 3 つの用途カテゴリと 14 の内容カテゴリが見出された。ひとつの問い合わせが複数の用途カテゴリ・内容カテゴリに該当する場合もあった。それぞれの用途の内容を見ると，「質問」は主として使用する教科書や担当教員，成績・評価などの制度面に関する確認を求めるものが多く，学習内容に関わる質問は全体で 7 件と少ない。これは問い合わせフォームとは別に，LMS 上に学習内容についての質問を受け付ける公開掲示板があったこととも関連している可能性があるが，そ公開掲示板も学生氏名が必然的に公表される仕様ゆえか，利用件数が著しく少なかった。多様な学習集団に対して画一的な解説動画・音声では，受講生の多様なニーズを満たしにくい可能性も考えられるため，今後はなんらかの対応が必要になるだろう。

「報告」カテゴリには，受講生の操作ミスの報告や教員の出題ミスなどの指摘，LMS のサーバーダウンなどの不具合に関わる投稿が多くみられた。また，成績・評価についての「質問」や試験等の再受験の「要望」と組み合わせられることも多かった。「要望」のカテゴリは全体としては数が少なく，広島大学が運用する各種オンライン教材のパスワードを忘れたのでリセットして欲しいというものや，操作ミスの報告と組み合わせた再受験の要望，様々な理由から受講時間延長を求めるものが大半であった。

Tips to Produce E-Tests on Blackboard LMS Efficiently

Blackboard ラーニングマネージメントシステムで効率的に電子テストを作成する方法

Kanazawa, Yu (Kwansei Gakuin University)

Keyword: Blackboard, Bb, LMS, LUNA, online tasks

Blackboard Learning Management System (Bb LMS) is widely utilized at universities around the world. Firstly, the advantages of making e-tests on Bb are exemplified. Followed by UI-related difficulties of making e-tests manually, an efficient method of making and duplicating Bb e-tests using Microsoft Excel is demonstrated using Bb-based LUNA system at Kwansei Gakuin University. Practical tips and advice including what to do and what to avoid will be given based on the presenter's experience. Finally, regarding the rise of hybrid teaching due to the COVID-19 pandemic, ideas of using Bb to implement tests in a hybrid classroom will be delineated.

より信頼性のある和英辞典の記述を求めて：翻訳ユニットの計量分析を通して

Toward Improving Lexical Descriptions in a Japanese-English Dictionary: Through a Quantitative Approach to Translation Units

仁科　恭徳（神戸学院大学）
Nishina, Yasunori (Kobe Gakuin University)

キーワード： 和英辞典，翻訳ユニット，計量分析

1. はじめに

コンピュータ・コーパスの到来以降、英英・英和辞典の記述には客観性が増し、より精緻な内容へと進化し続けている。和英辞典においても編纂方法が色々と工夫され、英和辞典のレベルとまではいかなくとも編纂時にコーパスを活用する辞書も増えてきた。しかしながら、学習英和辞典に関する研究は多々見られる一方で、学習和英辞典に関する研究は未だ少ないのが現状である。

そこで、本発表では、ボトムアップな視点から和英辞典の記述に関する計量分析を主に 2 つのケーススタディを通して紹介し、和英辞典編纂時にも活用が期待される現在開発中の日英・英日パラレルコーパスに関しても途中経過を報告する。特に、日本語コーパスや日英パラレルコーパスを活用することで可能となる辞書記述の比較分析や改善方法に関して具体的に紹介したい。

2. 分析対象と手順

本発表で取り扱う和英辞典は、改訂スピードなどの諸条件に従って選出された現行の数種類の中型和英辞典である。また、調査対象語・句は、過去に言語学的にも分析され、発表者の翻訳クラスでも学生からの質問が多かった「X 込む」と「固める」に焦点を置く。これらの辞書記述の比較や、様々なコーパスの検索結果から得られた知見に基づき、分析を進める。

3. 分析

「X 込む」においては、大規模日本語コーパスにおいて 174 種見られた。これらを精査し、頻度 2 以上で重複したものを削除するなどの諸条件をクリアした 106 種を分析対象とし、現行の 7 種の和英辞典の記述を翻訳ユニットの観点から調査した(翻訳ユニットの詳細は発表時に報告する)。そして、各辞書の「X 込む」の掲載状況(見出し語や例文など)に関して 3 種のクロス集計表を作成し多変量解析を実施することで和英辞典間の関係性を可視化した。その結果を報告する。

「固める」に関しては、現行の 4 種の辞書記述を比較した後、日本語コーパスから抽出した頻度データ、国立国語研究所が開発した分類語彙表を用いた意味分類、日英パラレルコーパスから獲得した翻訳データに基づき、現行の和英辞書の記述よりも精緻な記述改善案を提示したい。

4. 結果と考察

特に、日英間の翻訳ユニットに注目し、様々なコーパスを徹底的に活用し統計解析を施すことで、現在まで成し得なかったコーパス駆動型辞書編纂・分析が可能となる。本研究で示したような言語分析・研究が拡がることを切に願う。なお、最後に、現在開発中の日英・英日パラレルコーパスに関しても途中経過と開発スケジュールを報告したい。

映像作品を使ったグループワーク作文練習の効果：日本語説明文を中心に

Effect of Group Work Composition Practice Using Videos: Focusing on Japanese Descriptions

于　賛（山東青年政治学院）
Zan, Yu (Shandong Youth University of Political Science)

キーワード： 映像作品，グループワーク，協働学習，日本語教育

1. はじめに

日本語作文教育現場における映像作品の利用は，映像作品から学んだ言語知識の定着を中心とした検証がほとんどであるため，映像作品の視聴による持続的練習がもたらす作文能力の向上に関する検証はほとんどない。そこで，本研究では，映像作品を使った作文練習の効果を検証した。

2. 参加者と手順

参加者は，中国の日本語専攻の大学生 2 年生 20 名（全員日本語能力試験 N2 を保有しているが，N1 を持っていない）であった。学校教育の影響を防ぐため，春休み期間 2020 年 1 月 15 日から 2020 年 2 月 28 日の 6 週間で実施した。手順としては，まず，事前テストとして，参加者に「一つの懐かしい思い出」について，600 字から 800 字の説明文を書いてもらった。学習者が書いた作文の採点は，2 名の日本人教師が行った。採点については，田中・長阪・成田・菅井（2009）の評価基準を参考にし,分析的評価①「目的・内容」,②「構成・結束性」,③「読み手」,④「日本語・正確さ」⑤「日本語・適切さ」の 5 つの項目と総合的評価について評価シートを作成した。2 名の日本人教師に評価基準と評価シートを渡し，6 段階で評価してもらった。その後，20 名をランダムに 5 グループに分け，それぞれ筆者が作成したブログアカウントを渡した。毎週の月曜日から金曜日の間に，各自が視聴した一つの映像作品の一つのエピソードについて，その内容についてブログに書いてもらった。その後，土曜日か日曜日に，ほかのグループメンバーの作文を読んでもらい，ブログのフォーラムを利用してコメントしてもらった。コメントの要領は，授業中に説明した資料（田中・阿部，2014）を参考にしてもらった。そして，ほかの 3 名からもらったコメントを参考にして，自分の作文を修正し，再投稿してもらった。実験期間の 6 週間は，同じことを繰り返して行ってもらった。最後に，後期の授業が始まる前に事後テストを行い，参加者に「一つの懐かしい思い出」についてもう一度書いてもらったが，書いた内容は初稿と違う内容にするように指示した。学習者が書いた作文の採点は，事前テストと同じ 2 名の日本人教師が行った。

3. 結果と考察

事前テストと事後テストの結果についてノンパラメトリック検定を行い，効果量を算出して分析した結果，映像作品を使ったグループワークによる作文練習の効果が示唆された。この方法は，学習者の書く頻度が高い意見文にも効果があるかは，更なる研究が必要である。

参考文献

田中真理・阿部新　(2014）.『Good Writing へのパスポート―読み手と構成を意識した日本語ライティング』くろしお出版

田中真理・長阪朱美・成田高宏・菅井英明（2009）.第二言語としての日本語ライティング評価ワークショップ　評価基準の検討　『世界の日本語教育・日本語教育論集』19, 157-176.

オンライン授業でのウェブミーティングシステム(WMS)とラーニングマネジメントシステム（LMS）の統合化と課題の出し方

How to integrate Web Meeting System and Learning Management Tools to conduct productive class, and to assign homework.

木村（三宅） 陽美（ジョージア州立大学ペリメターカレッジ）

キーワード：Learning Management tools, Web Meeting System, Webex, Zoom,

Zoom やWebex などのオンラインミーティングシステムを使って、リモート授業を行う場合、従来の授業と違い、授業中 PC 操作や板書の工夫が求められることはもちろんであるが、課題や宿題の出し方にも気を配らなければ、うまく課題と授業と結び付けることが難しい。本発表では、オンライン授業下でどのように課題を出し、どう授業に活かしたらよいかという事を中心に、オンライン授業に特化した予習復習課題の出し方を紹介したいと思う。

大学の授業における LMS 掲示板の活用

The practical use of LMS Forums in the university classrooms

今村　梨沙（同志社女子大学　嘱託講師）

キーワード：ICT，BYOD, デジタル化

コロナ禍の授業では、しばしばICT の活用が求められる。ICT に詳しくない人 (non-techie) も利用できる学内 LMS (Learning Management System) は、学生にとって身近であり、大学が管理可能であるため、授業で重宝するツールの一つである。今回は、2 種類の学内 LMS を取り上げ、非同期型の TOEIC 対策授業と必修英語科目の対面授業内における掲示板の活用例を紹介する。

ライティングセンターSAPPにおける主体性を促す支援行動
—チューターと相談者の発話と課題の分析から—

A Tutee-Tutor Interactions to promote learner agency in the Writing Center SAPP
-An Analysis on Student Responses and their Assignments-

山下　美朋（立命館大学）
Yamashita, Miho (Ritsumeikan University)

キーワード： Meditation, dynamic assessment, learner reciprocity, learner agency

1. はじめに

立命館大学生命科学部・薬学部では、2017 年からライティング支援 Support for Academic Projects and Papers（通称 SAPP）を行っており，院生チューターが学部生の英語の課題の相談に乗っている。これまでライティングセンターにおいて，チューターと相談者の発話分析から，前者の介入の有り様や効果を分析した研究はあるが，相談者にどのような効果をもたらしたのか，特にライティングセンターが目的とする「書き手の主体性・自律性」の変化やその課題への feedback の効果を見た研究は少ない。本稿では, Dynamic assessment の観点から発話内容をコード化し，双方の発話からチューターの支援行動と相談者の主体性の変化と課題への反映を分析した。

2. 参加者と手順

今回対象としたのは，2019 年度秋学期の同じチューターと相談者の連続した 2 回の相談セッションである。チューターは生命科学部大学院 2 年生の男子学生でチューター歴は 2 年目である。相談者は，同学部の 2 回生の女子学生で 1 回生から SAPP を度々利用していた。両者の承諾を得て，セッションの内容は録音し，書き起こした発話データとインタビュー内容を分析対象とした。発話データは，チューター側は，モチベーションや社会認知的側面から分析コードを考案した Mackiewicz and Thompson（2018）他に基づき，3 種類のスキャフォールディング（Instruction Strategies, Cognitive Scaffolding Strategies, Motivational Scaffolding Strategies）を対象とした。相談者側は，介入に対しどのように反応したかを類型化した Poehner (2005, 2008) 他を参考に，「自分で問題点を発見する」「自分で解決法を示す」などの 7 つのコードを採択した。コードを付した発話内容からセッション毎に両者の変化を見た。

3. 結果と考察

分析の結果，プロジェクトの内容を明確化した 2 回目のセッションの方に，相談者の主体性が見られる発話が顕著であった。チューターからは，相談者自身が問題を解決できるように促したり，共感を示す支援行動があり，相談者を主体とする働きかけが伺えた。相談者の課題への意欲の強さと，両者が十分に議論を重ね目指す方向性への合意形成がなされていたことが，相談者の主体性の表れとなったと考えられる。また少なからず課題への反映もあった。今回は 2 回のセッションのみの分析であったため一般化はできないが，数少ない研究の一つとして，今後は更に対象を増やし，詳細な分析を行っていきたい。

参考文献

Mackiewicz, J., & Thompson, I. (2018). *Talk about writing. The tutoring strategies of experienced writing center tutors.* New York, NY: Routledge.

Poehner, M. E. (2005). *Dynamic assessment of oral proficiency among advanced L2 learners of French* [Unpublished doctoral dissertation]. Pennsylvania State University, University Park. PA.

日本人英語学習者の英語発音態度：どのくらいネイティブスピーカーに近づきたいと考えているのか

Pronunciation attitude of Japanese EFL learners: Focusing on to what extent they desire to obtain native-like pronunciation.

羽尾　将司（関西大学 大学院生）
Haneo, Masashi (Kansai University)

キーワード：発音態度，native-ness principle，ライフストーリー

1. はじめに

EIL（English as an International Language）やWorld Englshes などの考えが日本の英語教育にも徐々に浸透してきており（Matsuda, 2009）、英語発音指導の目標が「ネイティブスピーカーに近づくこと」から「コミュニケーションに支障をきたさない分かりやすい発音を身につけることに」シフトしている（Celce-Murcia, et. al, 2010）。しかしながら、学習者の中には「ネイティブスピーカーの発音に近づきたい」と考えている学習者もいる（e.g., 篠崎, 2015）。学習者のこの「英語発音態度」に焦点を当てた研究はほとんどなく、またこれまでの研究は量的な手法を用いたものがほとんどである。そこで、本研究では、日本人英語学習者がどのくらい「ネイティブスピーカーの発音に近づきたい」と考えているのか、またそれにはどのような要因が関係しているのかを質的に調査した。

2. 参加者と手順

参加者は、英語専攻の日本人大学院生５名であった。オンラインによる半構造化インタビューを実施し、必要に応じて再度インタビューを行ったり、メールなどで確認を取ったりした。

3. 分析

学習者の英語学習経験や使用経験が「発音態度」と関連があり、学習者の主観を重視するため、桜井（2005）をもとにしたライフストーリー法を分析方法として用いた。

4. 結果

分析の結果、５名中１名のみがネイティブスピーカーの英語発音を目指していることが分かった。残りの４名は、発音は重要だと認識しているが、大きく分けて次の２つの理由から、必ずしも目指す必要はないと回答した：(1) L1の影響を受けたアクセントのある英語でもアカデミックの世界で活躍できることを知ったため、(2) 自分のアクセントを気にしていない他の学習者を見て、憧れを感じたため。

参考文献

Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., & Goodwin, J. M. (2010). *Teaching pronunciation hardback with audio CDs (2): A course book and reference guide*. Cambridge University Press.

Matsuda, A. (2009). Desirable but not necessary? The place of world Englishes and English as an international language in English teacher preparation programs in Japan. In F. Sharifian (Ed.), *English as an International Language: Perspectives and Pedagogical Issues* (pp. 169–189). Multilingual Matters.

桜井厚 (2005). ライフストーリー・インタビュー をはじめる. 桜井厚・小林多寿子（編） 『ライフストーリー・インタビュー： 質的研究入門』 (pp. 11–61). せりか書房.

篠崎文哉 (2015).「日本人が目指すべき発音とは：中学生を対象としたアンケート結果から」『日本国際教養学会誌』, 1, 62-72.

音声合成を用いた外国語教材作成プラットフォームの開発：ロシア語教育での活用を主眼として

Development of the Platform for Generating Teaching Materials Using Synthetic Voice: Practice in Russian Language Courses

松下　聖 (近畿大学)

キーワード： 音声合成，TTS，ロシア語

1. はじめに

音声合成技術の外国語教育への活用や、その有効性の検証が、特に英語教育を中心に進んでいる（Bione & Cardoso, 2020）。報告者は、音声合成をクラウド上でより簡便に利用し、かつ多様な検証・実験を行うため、教材作成プラットフォームを開発した。本報告では、音声合成の活用がこれまで進んでいなかったロシア語教育において同プラットフォームを利用した結果を考察し、今後のプラットフォーム開発の展望を報告する。

2. 主な仕様

教材作成プラットフォームは、試用版としてウェブ上に公開している。登録したユーザ（教師）は、音声付き語学教科書によく見られる、会話型のテキストページを作成し、それぞれの発話に音声を付けることができる。一連の作業はブラウザ上で完結し、教師側も生徒側も特別なソフトのダウンロードは必要ない。合成音声の生成には Google Text to Speech API を利用しており、同 API が対応している 30 言語以上を使用することができる。

3. ロシア語授業における実践

プラットフォームを活用した実践は、報告者の受け持つロシア語クラスで行なった。受講者はのべ 20 人、レベルは A1～A2 (CEFR)である。授業は全てオンラインで行い、主に予習・復習用教材としてプラットフォームを活用した。作成した教材は、基礎単語集、初級文法に関する例文集、会話表現集である。

4. 考察

今回作成した教材の範囲においては、ロシア語音声の品質は問題の無いレベルであったと考えられる。報告者以外の非母語話者ロシア語教員の評価では、サンプル音声 23 組（最大で 5 単語から構成される初級会話文）のうち、品質に違和感があるとされた音声は 2 組であった。いずれも一部の母音の発音等の違和感であり、発話全体としては自然という評価であった。ロシア語特有の課題としては、イントネーションの表現が挙げられる。ロシア語では、イントネーションの付け方によって疑問文などの文意が大きく変わることがあるため、システム上で簡易にイントネーションの設定ができることが望まれる。

今後の開発については、①Google 以外の音声合成 API（特にロシア企業 Yandex 製 API）の統合、②音声合成マークアップ言語（SSML）への対応、③学習者のエンゲージメント計測機能の実装を検討している。また、ロシア語および他の言語で研究協力者を募り、プラットフォームの実用性を向上させていきたい。

参考文献

Bione, T., & Cardoso, W. (2020). Synthetic voices in the foreign language context. *Language Learning & Technology*, *24*, 169–186. https://doi.org/10125/44715

Quizizz を使ったオンライン授業の導入

Implementing online lessons using “Quizizz”

大前　智美（大阪大学）
山岡　正和（大阪府立渋谷高等学校）

キーワード：オンライン授業，ICT，授業支援

授業導入時のオンラインクイズとしては、Quizlet や Kahoot!などが定着している印象があるが、本発表では Quizizz を取り入れた授業実践について報告する。発表者は Zoom によるオンライン授業と対面授業の両方で、授業導入時に前回の振り返りとして Quizizz を利用している。Quizizz と Quizlet・Kahoot!との機能の違い、Quizizz を使うことによる学生の反応や、学習へのモチベーションにどのように作用したのかを簡易なアンケート調査の結果を含めて情報共有を行いたい。

外国語教員のためのインストラクショナルデザイン

鈴木　克明（熊本大学）

インストラクショナルデザイン（ID：授業設計学）は教育工学領域で何を誰に教えるときにも使える汎用的な研究知見をモデル化・理論化してきた。本講演では、ARCS モデル、ID の第一原理などを紹介し、メディア環境の変化で再定義が求められている外国語教育の授業設計の視点を提案する。

進化する語学教育現場を 6つのアプローチでサポートします！

アルクの

学生が授業時間外に勉強をしない

予算が無い

学生の英語力の差が激しい

ネイティブの先生も使える教材が欲しい

TOEIC® テスト/TOEFL® テスト対策をしたい

CEFR 準拠の教材が欲しい

グローバル化社会、情報化社会に対応するための教育改革が急務となる中、
次々と浮かび上がってくるキーワード。
私たちアルクは、長年培った経験や実績を生かし
英語教育の現場で奮闘する先生方を応援します。

トータルソリューションならアルク。

2.アルクのeラーニングシステム

ALC NetAcademy NEXT

延べ 100 万人以上が受講した ALC NetAcademy シリーズの最新版

シリーズ導入教育機関数　延べ約 620 校
企　業　数　延べ約 480 社

特徴
- 分かりやすいレベル設定
- モバイル対応でどこでも学習
- 学習の進捗が一目瞭然
- 6技能を習得、テストで定着度を確認
- アルクのコンテンツが学習素材

全 12 コース
- 総合英語トレーニング 初級コース
- 総合英語トレーニング 中級コース
- 総合英語トレーニング 上級コース
- TOEIC®L&R テスト突破コース (500 点・600 点・730 点)
- TOEFL ITP® テスト攻略コース
- 基礎からの英文法トレーニングコース
- 医学・医療英語コース
- PowerWords Hybrid コース
- 英単語パワーアップコース (TOEIC® テスト、TOEFL® テスト、理工、医学・医療)

3.研修・授業

教育機関の学生や教職員、企業・団体の学習者を対象に英語コミュニケーション力向上プログラムを提供

- FD研修
- SD研修
- 自己学習法
- TOEIC®対策
- TOEFL®対策
- コミュニケーション
- ディスカッション
- 異文化コミュニケーション
- ビジネス
- 留学前研修

(他多数)

4.電話によるスピーキングテスト

TSST=英語スピーキングテスト
年間約1万人が受検

5.英語学習アドバイザー

ESAC®(イーザック)
=English Study Advisors' Certificate
学習者の自律学習をバックアップ

アルクのトータルソリューション

1.書籍・教材開発

- 書　　籍：累計490万部を突破した「キクタン」シリーズをはじめ、TOEIC®テスト・TOEFL®テスト対策書籍から専門英語書籍まで充実のラインナップ
- 通信講座：「ヒアリングマラソン」は延べ120万人以上が受講

6.デジタルコンテンツ

- アルクオンライン英会話
- アルクオンライン日本語スクール
- 英辞郎 on the WEB Pro
- 各種アプリケーション

株式会社アルク　文教営業部
e-mail：academy@alc.co.jp
http://www.alc-education.co.jp/academic/

英語の先生応援サイト LTAF
https://teacher.alc.co.jp/
(LTAF:Learning Teachers' and Advisors' Forum)は、"本気の英語の先生"をアルクが応援するための、登録制(会員制)のウェブサイトです。

地球人ネットワークを創る アルク

SEIBIDO　オンライン授業お勧め商品のご案内

eラーニング

映像教材：映像配信サービスとテキストが一体となった商品です。

▶ https://www.seibido.co.jp/streamline.html

StreamLine ONLINE VIDEO STREAMING SERVICE

先生方のメリット	学生のメリット
● 遠隔で映像の共有が可能。 ● 映像を使った課題指示がしやすい。	● PC やスマートフォン、タブレットで映像視聴ができる。 （※インターネット環境が必要）

リンガポルタ対応テキスト：テキストと e ラーニング学習コースが一体となった商品です。

▶ https://www.seibido.co.jp/linguaporta/textbook.html

LINGUAPORTA

先生方のメリット	学生のメリット
● Unit ごとに課題が出せるので課題準備のご負担が少ない。 ● e ラーニング導入に伴う費用が発生しない。 ●ご担当クラスの学生の学習履歴を閲覧し、成績に反映することができる。 ●学生の学習状況が定期的にメール配信されるサービスもある。 ●リンガポルタのコンテンツからテスト問題が作成できる。	● テキストを購入すれば原則 1 年間無料で利用できる。 ● PC やスマートフォン、タブレットで学習ができる。 ●定着していない学習項目は、学生が習得するまでスパイラルに提示されるので定着できる。 ● 正解率に応じた問題量の自動調整機能がある。

EnglishCentral 対応テキスト：テキストと e ラーニング学習コースが一体となった商品です。

▶ https://www.seibido.co.jp/englishcentral/advantages.html

EnglishCentral

先生方のメリット	学生のメリット
● Unit ごとに課題が出せる。 ● クラスの学習履歴が確認できる。 ● 学習目標の設定ができる。 ● e ラーニング導入に伴う費用が発生しない。	● PC やスマートフォン、タブレットで学習ができる。 ● 音声認識システムが、学習者の発話を判定！ ● テキストを購入すれば無料で利用できる。

ActeaBo 対応テキスト：テキストと e ラーニング学習コースが一体となった商品です。

▶ https://www.seibido.co.jp/np/list.html?q=acteaBO

ActeaBo

先生方のメリット	学生のメリット
● Unit ごとに課題が出せる。 ●クラス単位で履修者の管理も可能で、学習状況を把握しながらご利用いただけます。	● 学習進捗状況が視覚的に確認できる。 ● PC で学習ができる。

EnglishCentral：動画による発音トレーニング、単語学習、リスニング学習ができる web 学習システムです。

▶ https://www.seibido.co.jp/englishcentral/about.html

EnglishCentral

先生方のメリット	学生のメリット
● 大学ごとのカリキュラムやご講義内容に沿った動画をピックアップし、大学独自のオリジナルコースを作成することも可能です。 ● 学習目標の設定ができる ● 成績レポートの印刷・データ抽出も可能。 ● 動画のスクリプト完備。また動画の関連単語やワークシートを授業で利用することも可能。	● 音声認識システムが、学習者の発話を判定！ ● スピーキング力 強化に適した教材です。 ● さまざまな動画で生きた英語力が身につくオンライン教材。 ● PC やスマートフォン、タブレットで学習ができる。

株式会社　成美堂
〒 101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL: 03-3291-2261　　FAX: 03-3293-5490
e-mail: seibido@seibido.co.jp　URL: https://www.seibido.co.jp

外国語教育メディア学会（LET）関係者各位

LET 関西支部 2020 年度春季研究大会の近況報告方々のフォームを踏襲し案内させて頂きます。

（2020 年 08 月 01 日）　http://global8.or.jp/posts/news55.html　抜粋掲載

本日よりＯＰＩｃサービスプラットフォーム刷新

この度、現在提供させて頂いていますＯＰＩｃサービスのＩＣＴプラットフォームサポート停止（ＡｄｏｂｅＦｌａｓｈが今年一杯で停止に合わせ各種ブラウザでの入手も制約有）対応としてＨＴＭＬ５版への切替を行うこととしました。

（追加機能）

①環境チェック（ブラウザがＩＥ限定から、ほとんどの主流ブラウザ対応に加えネットワークパフォーマンスの事前チェック可能）

②デモ体験（英語のみですがイメージとしては全言語共通）

③評価言語：２言語→１４言語

Arabic, Mandarin Chinese, English, French, German, Italian, Japanese, Korean, Pashto, Persian Farsi, European Portuguese, Brazilian Portuguese, Russian and Spanish

④評価対象：Advanced Mid-Superior レベルを追加（但し評価拡張領域は申込時に申告によりＦｏｒｍ変更を行います）　http://www.global8.or.jp/Evaluation%20Indicators_Global8.pdf

（変更点）

①テスト時間：４０分をフルセルフマネジメント→各設問最大２分程度で制約し３０分

（トラブル抑制に寄与）

②オリエンテーション：英語によるセルフオリエンテーション

（在宅、遠隔でのサービス提供機会の可能性拡大）

（機能停止）

①Intermediate Mid の３分割評価の停止

（詳細紹介ＵＲＬ）

https://www.languagetesting.com/oral-proficiency-interview-by-computer-opic

（オンライン授業支援: LET 賛助会員各社の取り組み　What's New　本部）

上記新プラットフォームの活用事例として以下の掲載をさせて頂きました。

OPIc サービス刷新版を当法人会員限定でコロナ環境下の在宅コミュニケーション能力評価支援に開放開始し、関西大学と UMAP が共同で行った UMAP-COIL Joint Program 2020 にも適用頂きました。

（2020 年 12 月 19 日）

2020 年度秋季研究大会にて初の PR 動画放映予定。ご笑覧頂き、今後学生等の感想を盛込み改善致したく、広く試行活用・ご意見募集します！

オンライン英語動画・添削サービス

スマートレクチャーコレクション

Vision Quest シリーズに対応した「解説動画」と，外国人講師による「ライティングの添削」で，教科書で学んだことをアウトプットに活かせる機会を増やします。

1 Vision Quest シリーズに準拠した解説動画

- パソコンやスマートフォン，タブレットで教科書の解説動画を見放題！
- 一部の動画（Vision Quest Ⅱ Part2）は日本語版に加え，英語版も提供！

2 教科書のライティング課題の添削サービス

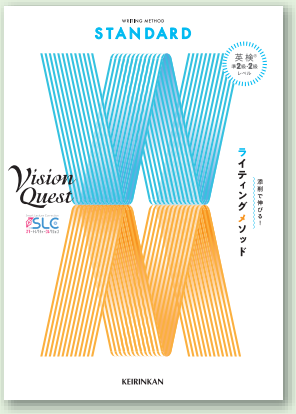
- Vision Questシリーズのライティング課題を，外国人講師が添削！
- 語彙や文法の添削に加えて，英作文の内容に関するコメントを得られるので，外国人講師と生きたコミュニケーションが可能！

パラグラフライティングが学べる！
ナビゲーションブック付きラインナップが登場！

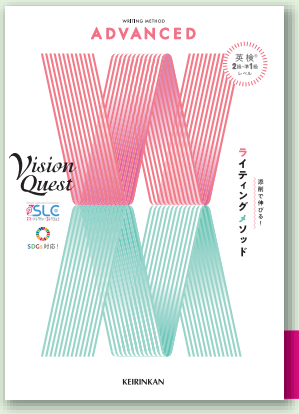
フィードバック機能

2021年4月スタート予定！

Basic
英検3級～準2級レベル（30～70語）



Standard
英検準2級～2級レベル（60～100語）



SDGs対応！

Advanced
英検2級～準1級レベル（80～150語）

各 全20題（テキスト10題＋類題10題）

ライティングメソッドとは…

パラグラフライティングが学べるナビゲーションブック付き添削サービス。入試・外部試験で頻出トピックの知識を深めながら，ライティングに必要な「正しい英語で自分の意見を論理的に書く」メソッドを学びます。各レッスン末のライティング課題をスマコレで提出・添削できるので，学んだことをアウトプットし，知識を確実に身につけることができます。

知が啓く。 啓林館
https://www.shinko-keirin.co.jp/

本　社	〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号	電話(06)6779-1531
東京支社	〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号	電話(03)3814-2151
北海道支社	〒060-0062 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階	電話(011)271-2022
東海支社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階	電話(052)231-0125
広島支社	〒732-0052 広島市東区光町1丁目7番11号広島ＣＤビル5階	電話(082)261-7246
九州支社	〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号ハイヒルズビル5階	電話(092)725-6677

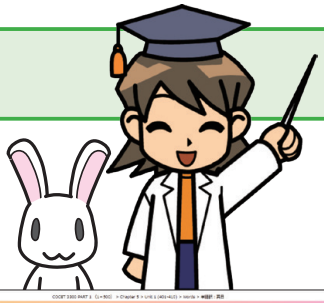
UCHIDA

内田洋行は、いい「学校・教育・授業」づくりを支援します。

英語 e-Learning システム

ATR CALL BRIX

ATR CALL BRIX
ATR Computer Assisted Language Learning System



4技能をバランスよく学習できるカリキュラムで、基礎力を養います。

オススメコース

≫TOEIC® L&R テスト トレーニングコース

- 2016 年 5 月に改訂された新形式に対応した問題を収録しています。
- TOEIC® テスト形式以外の教材も豊富で、基礎力をつけながらスコアアップを目指せます。

≫理工系学生のための英語力強化コース

- 書籍のパートにあわせたカリキュラムです。
- 単語や用例文の発音練習もできます。

COCET3300 対応!

全ての課題をスマホ・タブレットで学習できます

無料の専用アプリダウンロードはこちらから

Android

iOS

ATR CALL BRIXは、ATRにおける約30年の研究成果から誕生したe-ラーニングシステムです。

ATR
Advanced Telecommunications Research Institute International

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所（ATR）

電気通信分野における基礎的・独創的研究の一大拠点として、産・学・官の幅広い支援を得て1986年に設立されました。3年後にけいはんな学研都市（京都府）に移って以来、けいはんなの中核研究機関としての役割を果たし、その最先端の研究内容と優れた研究成果により、世界的な評価を受けています。

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS).
This product is not endorsed or approved by ETS.

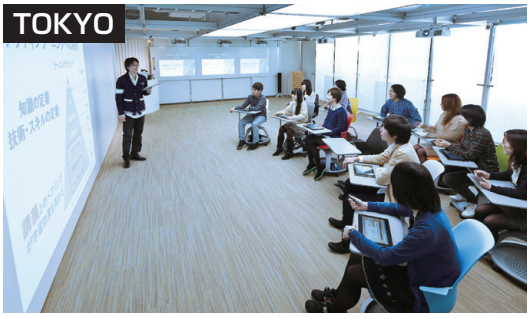
学修空間

アクティブ・ラーニングに最適 FutureClassRoom®

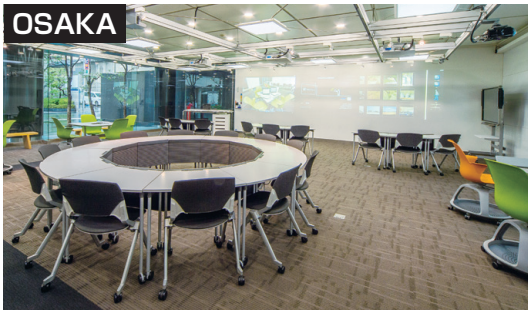
双方向授業や主体的な学び（アクティブ・ラーニング）を支援する教室

近年、一方的に話を聞くレクチャー型の授業だけではなく、グループワークやプレゼンテーションなど学生が主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」が増えてきています。この「アクティブ・ラーニング」では、それぞれのシーンごとに空間を自由に変えることができる教室が求められます。
フューチャークラスルーム®では、「アクティブ・ラーニング」環境のご提案だけでなく、実際の授業を実践・体験していただくことも可能です。是非、アクティブな学修空間をご体感ください。

TOKYO



OSAKA



「フューチャークラスルーム®」は、学校関係者や企業・研究機関とご一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル（東京都中央区）と大阪支店（大阪府大阪市）に設置しております。
ぜひ、ご来館ください。
（ご見学は事前予約制です）

内田洋行　事業企画部　〒135-0016　東京都江東区東陽2-3-25　☎ 03(5634)6397　www.uchida.co.jp/education

MALL システム 《キャラボ エムエックス》

CaLabo® MX

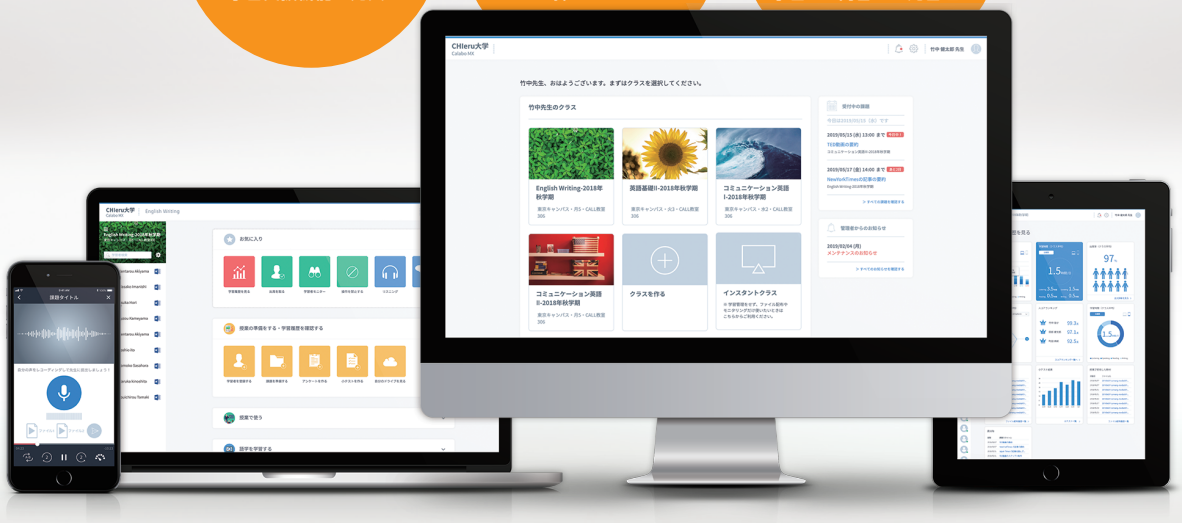
CHieru

授業運営に必要な機能と、先生にやさしい操作性で
PC学習も、スマホ学習も一元管理。

英語4技能の学習支援
4技能に対応した学習支援機能が充実。

導入コスト 運用負荷の低減
導入コスト・運用負荷を抑えます。

学習履歴を一元管理
PCもスマホも！学習した内容を一元管理。



英語4技能学習に特化したクラウド型のMALLシステム

MALLとは、“Mobile Assisted Language Learning”の略。ノートPCやスマホなど可搬性のあるモバイル端末を利用した語学学習を指します。

英語4技能の学習に対応した豊富なアクティビティ

豊富な教材も搭載！

聞く Listening

音声速度や音量の調整、A-Bリピートなどリスニングに便利な機能を搭載。

- リスニング
- シャドーイング
- ディクテーション

話す Speaking

発音矯正や、質問に口頭回答。音声認識により、自動採点を実現。

- 発音矯正
- スピーキング表現
- シャドーイング
- レコーディング

読む Reading

単語の早引きや「My単語帳」への登録、習得済み単語の色分けなど。

- リーディング
- 英文要約
- 語彙クイズ

書く Writing

ディクテーションや質問に筆記回答、英単語の書き取り。自動採点を実現。

- ディクテーション
- ライティング表現

学習履歴を一元管理

4技能別、学習者別、クラス全体の集約など細かい単位で履歴を参照可能です。

CHieru チエル 株式会社
東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー3F（本社）
お電話は、土・日・祝日を除く午前10:00～午後5:00まで受け付けております。
chieru-sales@chieru.co.jp 03-6712-9721 www.chieru.co.jp

SANSHUSHA

新刊ご案内

コミュニケーション・タスクのアイデアとマテリアル
教室と世界をつなぐ英語授業のために

加藤由崇／松村昌紀／ Paul Wicking 編著
横山友里／田村 祐／小林真実 著

ISBN：978-4-384-05940-3　（本体 2,800 円＋税）

多文化社会のコミュニケーション
– 買いかぶらず、決めつけない基本スキル –

山本喜久江／八代京子 著

ISBN：978-4-384-05976-2　（本体 2,000 円＋税）

他者とつながる外国語学習をめざして
「外国語学習のめやす」の導入と活用

田原憲和 編著

山崎直樹／齊藤公輔／田中祐輔／大森洋子／茂木良治／池谷尚美／中川正臣／植村麻紀子／松﨑真日／野澤督／村上陽子／能登慶和／鈴木冴子／依田幸子／柳素子／櫻井千穂／澤邉裕子／阪上彩子 執筆

ISBN：978-4-384-05927-4　（本体 2,200 円＋税）

◆新刊テキスト見本ご請求おまちしております!!◆

三修社
〒 150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22
TEL 03-3405-4511　FAX 03-3405-4522
https://www.sanshusha.co.jp